修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
〒101　東京都千代田区
神田錦町1-17-1（NK第一ビル）☎03（5259）0631
振　替　00160－7－36337

財団法人全国修学旅行研究協会（全修協）は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団である。

ハワイの友と楽しい交流
（メイノール高校にて　富田高等学校　2面に作文）

平成9年度

修学旅行費等の国庫補助金

総額30億5千万円に決定

全員参加の基本条件 実態に合わせて
一人単価は毎年増額

平成九年度の国家予算が三月二十八日に成立し、要保護・準要保護並びにへき地校の児童生徒に対する修学旅行費・校外活動費の国庫補助金が正式決定した。

総額は、修学旅行費が二十四億三千八百七十九万九千円、校外活動費が六億七百四十万七千円で、対象者減少のため前年より若干減額されたが、一人当たりの単価は下表のとおり今回も増額された。

この補助単価増額について、財団法人全国修学旅行研究協会では、毎年文部省及び大蔵省に対し陳情を行っているが、実態に合わせて毎年増額が認められており、昭和三十四年から続いているこの補助金制度が、全員参加の修学旅行に果たす意義は極めて大きい。

修学旅行費等補助金予算単価

修学旅行費（要保護・準要保護児童生徒対象）

校　種	8年度予算単価	9年度予算単価
小学校	19,700円	20,300円
中学校	54,200円	55,500円

校外活動費（準要保護児童生徒対象）

種　別	校　種	8年度予算単価	9年度予算単価
宿泊を伴わない	小学校	1,470円	1,500円
	中学校	2,120円	2,160円
宿泊を伴う	小学校	3,390円	3,460円
	中学校	5,710円	5,820円

―主　張―

学校週五日制時代の修学旅行の確立を

本部事務局長　鴻田好通

年頭、橋本総理大臣は、従来の行政改革、経済構造改革、財政構造改革など五つの改革に新たに教育改革を加え、六つの改革を一体的に、時限を区切って進めていくという決意を示した。これを受け、文部省は一月二十四日教育改革プログラムを策定した。学校週五日制に関しては二〇〇三年を目途に完全実施を目指し、教育内容を厳選し、「生きる力」を育成するよう、教育課程審議会で検討、平成九年秋を目途に中間まとめ、その一年後に結論ということになった。

従来も、学習指導要領改訂の都度、新しい教育課題が提起され論議されてきた。しかし、学校教育関係者の努力にもかかわらず、学校の実態は、掛け声倒れであまり変わっていないのではないかという声を聞くことがある。諮問・答申・実施というプロセスで、どこでどのように、どれだけ実質的な論議や問題提起がなされたかということを振り返って見る必要がある。

全修協は先に「学校週五日制にかかわる修学旅行の諸問題研究プロジェクト」を発足させたが（平成八年十二月の本欄）、それは上述のような課題意識による。この意識をもとに完全学校週五日制実施に伴う修学旅行に関する諸々の条件の変化をとらえ、それを具体的な検討課題としてまとめ、それについて、直接に担当する校長会や教職員の間での研究的論議の場を設定したいと考えている。全修協は修学旅行の改善向上について、関東地区公立中学校修学旅行委員会、東海三県中学校修学旅行委員会、近畿地区公立中学校修学旅行委員会、これらの連合である三地区修学旅行連合委員会とともに、調査・体験発表等の実践的研究を積み重ねてきた。教育改革の目指す新しい教育のなかに位置付けるべき修学旅行の在り方に関して、その専門的立場から追究していくことが求められていると考える。修学旅行の専門的研究財団としての全修協の使命もこうした課題対応にある。

学校週五日制に関して、一番大きな変化をもたらすであろう授業時数については、現在具体性を持たない。学習指導要領に教科・領域の枠組みや具体的授業時数が示されるのを待つという空気もあり、それが、消極的対応につながっていくことを避けたい。

完全週五日制の学校のイメージは様々に描かれようが、修学旅行や運動会のない学校のイメージは持ちにくい。それは、大人たちが持つ郷愁や情緒の産物であるにせよ、こどもの時代の未知の世界への紛れもない感動や体験であった。

しかし、個性化の時代、修学旅行について見れば、集団での旅行はナンセンスという風潮も強く、現在主流になっている班別自主行動はそれらの反映でもあろう。一方、授業時数確保に伴っての行事の見直し、準備のための時間の問題、経費の増加、レジャー旅行・家族旅行の影響など、現状の多くの問題を抱えつつ、また国際化の進展の中、修学旅行は新しい時代の教育にふさわしい在り方が検討されなくてはならない。

学校週五日制は、授業日数、授業時数といった教育量の変化をもたらすだけでなく、学校教育の質、その在り方を変えていかなければならない教育改革なのである。

高校総体も考慮し 栄養たっぷりに

京都の旅館が献立講習会

修学旅行シーズンを迎え、恒例の京都府旅館環境衛生同業組合・団体旅館部会主催による「献立講習会」が、三月七日午後、京都市役所前の本能寺文化会館で開催された。

修学旅行受入れ旅館の食事の改善や接遇の向上を目指して昭和五十二年に始められたもので、今年は二十一回目になる。

ここ数年来、参会者にわかりやすくするため、会場中央には、食事材料等をパネルで展示し、前のメインテーブルには、栄養たっぷりの夕食四点、朝食三点の代表的なお膳を並べるなどの方法がとられている。

今年の献立は、トンカツ等脂肪分の多いものが多く展示され、生徒の嗜好に合わせる工夫が目立った。なお、一つは温かいものをと、どのサンプルにも個人用の鍋物がつけられている。また、連泊ができるように、朝・夕食とも、和食・洋食両用のメニューが用意された。さらに、雲仙・広島・香川など他地区の夕食がパネルに展示され、参考になるとなかなか好評だった。

ハンバーグ、カレー、グラタン、シチューなどが好まれるのは例年どおりだという。なお今年は八月に高校総体が開催されるため、府からの指示で、夕食、朝食とも栄養たっぷりの五種類のメニューが紹介された。五日以上にわたる場合は、それを繰り返すという。

今年も食品会社を中心に二十数社が参加したが、体験学習の時代の波に添って昨年と同様に京友禅の漆法の体験室も設けられ、参会者に喜ばれていた。

遠藤俊雄部会長談「今年は高校総体もあり、新しい京都駅も誕生することもある年。部会員一同努力を続け、安全や食品衛生面の十分な注意を払っているので、修学旅行生には十分喜んでいただけると思う」。

夕食、すきやきのサンプル

風紋

「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず」。卒業生が巣立ち、ピカピカの一年生が入学した。大人の世界でも退職・就職と世代交代の春である▼カモやユリカモメが北に帰ると、ツバメが飛び交う。昨年生まれたひなが、見事に成長して戻って来たのだろうか▼春は花の季節でもある。宮崎のフラワーフェスタ、長崎や富山、新潟のチューリップ、そして最も人気の高いのは桜だ。昨年は桜前線北上の足が鈍って、京都では例年になく多くの修学旅行生が桜を楽しんだが、今年はやや平年並みといえそうである▼これからは雪の多い地方の花見の季節となる。甲信越では、梅やモクレン、桃、アンズ、リンゴが咲き競い、長かった冬からの開放感を満喫する。青空にそびえる残雪の山々をバックに、色とりどりの花を楽しむのは最高の気分だ▼空といえば、天文ファンも多忙だった。三月九日の日食では、上向きの三日月型の太陽が木漏れ日では下向きに写り、かわいいスマイルの眼が並んでいた。四千年ぶりのヘール・ボップすい星が大都会で見られたのも、この春の収穫である▼これからの桜の名所は信州高遠、みちのくでは北上展勝地、盛岡石割桜、小京都角館、秋田千秋公園、弘前城等々。そして津軽の海を越え、北海道松前へ▼六三制が発足した五十年前は、食糧不足で花見より給食が楽しみだった。今は飽食の時代、食べ残しのごみをなくそう。（中）

＜修学旅行実践報告＞

生きる力を育てる修学旅行
—伝統工芸を肌で感じとる職場体験学習を取り入れて—

新潟県上越市立潮陵中学校 校長 四津谷 満夫

一、はじめに

当校は上越市西部、桑取川の谷一帯と日本海の海岸沿いに点在する集落を校区にする生徒数八十八人の小規模校である。大自然に恵まれた環境にあり、生徒は明るく素直で、落ち着いた雰囲気の中でまじめに学習に取り組んでいる。しかし、その分、おとなしい生徒が多く、たくましさなどの不足が指摘される。

そこで、地域の自然の豊かさ、そこで生きる人々の知恵やたくましさを学ぶ体験的活動を積極的に取り入れ、課題解決を図っている。

二、修学旅行の位置付け

「生きる力」を育てる観点から進路指導を見直す中で、職業に係る啓発的経験を充実することが重要であると考えた。県の「いきいきスクール」事業と絡め、一年生では生徒の保護者の勤めている職場の見学、二年生では地域の事業所を訪問しての簡単な勤労実習を行った。そして、三年生ではその一連の活動の集大成として、修学旅行の中で職場実習を盛り込むことにした。

京ちょうちん作成を体験

三、修学旅行日程の概要

一日目は、見学したい京都の名所・旧跡等を自ら選び、バス、電車、タクシーを利用しながら、グループ単位で行動し、その風情や情緒を味わった。

二日目は、日本の産業や文化の伝統が今もしっかりと息づいている京都の職場に二～四人して入り、職人さんの手ほどきを受けながら勤労体験をしてみた。

三日目は、古都奈良のしっとりとした寺院や仏像をクラス一緒になってゆっくりと見学した。

また、夜はテーブルマナーや旅館・ホテルの利用の仕方も学んだ。

四、職人の技と心を感じとった職場体験学習

例年三年生が行っていた修学旅行が、八年度より授業日数の関係で二年生の行事となった。職場体験を取り込んだ修学旅行は三回の実施をみているが、その都度職員が足を運び、訪問先の事業所を探し歩いた。事情により断られるケースも多かったが、今回は十一か所の職場に協力していただくことができた。訪問生徒や担当職員の熱意をくんでもらい、当日は、すべての職場が快く生徒たちを迎え入れてくれた。

二人の生徒が訪れた京ちょうちんの店では、指導を受けながら七十センチ近くある本格的な京ちょうちんをお土産に持ち帰った。草木染めの工房を訪れた生徒は自分たちで草木を集めるところからはじめた。その他、釣竿、京木具、食材、菓子、漬物、数珠店等で修業した生徒たちは、伝統工芸の見事さに触れ、それを守る職人の技と心に深く感動した。「今回学んだことは、職人さんの仕事に対する真剣さと誇りです」「仕事をやり終えたときの喜びを学びました」「自分の道を選ぶことが大切なことだと思いました」と、体験学習を終えた生徒たちは書きつづっている。

草木染めの材料を集める

また、事後、生徒の送った礼状に対し、「京都の子供たちもそちらに行かせ、自然と密着した生活を味わわせたい」と、ある事業所から寄せられた便りが強く印象に残った。修学旅行の今後の方向について、深い示唆を得たように思われる。

◇潮陵中旅行行程◇

11／20 谷浜—富山—京都…市内班別学習…京都泊

11／21 京都…職場体験学習（市内十一事業所、グループ学習）…京都泊

11／22 京都＝奈良…奈良公園・東大寺＝薬師寺・唐招提寺＝京都—直江津

——修学旅行生の作文——

＜心に残る修学旅行＞

ハワイ見聞記

岐阜県私立 富田高等学校

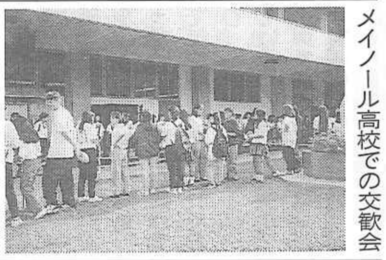
岐阜市の私立富田高等学校は、海外修学旅行を初めてハワイで実施した。その時の感動と体験を紹介する。

学校訪問

梶田 清仁

僕にとって一番の思い出は、モアナルア高校の訪問である。まずその学校に入ってすぐに、日本の学校とは違った空気を感じた。外見、内面からも、すべてが違った。学校案内からすべて暖かく歓迎してくれた。その暖かさは全く作りものではなく、まさにだれもが持つ心だった。会う人皆がやさしく接してくれ、今までの自分の性格が妙に変な気持にさえなった。言葉は通じないものの、身振り、わずかな英単語、笑顔で入れば、相手に心が伝わり楽しく話せたのが、一番うれしく一番の喜びであった。言葉の壁はなんと薄く、だれとでも心を通い合わせられるのだと思った。

今日、この学校に来て思うことは、まずこんな暖かさあふれる学校がうらやましかったし、本当に素晴らしい経験ができたと思う。それに、二度と来ないこの時が妙に、惜しく思えてならない。できるならもう一度この地に来たいと思った。この思い出はずっと自分の心に色あせることなく、いつまでも心に刻みこまれ生き続ける。



メイノール高校での交歓会

ハナウマ湾をバックに

アリゾナ記念館を見て

有本 尚子

修学旅行で、一番思い出に残っているのはアリゾナ記念館だった。アリゾナ記念館に入館する前から、日本人として罪悪感を感じていた。スクリーンには一九四一年一二月七日早朝に日本連合艦隊の爆撃機が、真珠湾に停泊中のアメリカ太平洋艦隊主力艦を奇襲攻撃する場面、その奇襲攻撃によっての犠牲者が出た場面が映った。その時代の生々しい惨たんたる光景を目の当たりにし、戦争の悲惨さをひしひしと感じた。

戦後五十年を経て、一見平和そうな日本を見ても、中国残留孤児の問題、アジア各国に対する戦後保障の問題が残されている。現代社会は未曽有の勢いで常に変動を繰り返しているように見える。が、戦争とは決して過去のものではなく、様々な問題を考えなければならない。

◇富田高校旅行行程◇

11／18 学校—名古屋空港—ホノルル・パンチボールの丘・平和式典

11／19 オアフ島内見学（アリゾナ記念館、シーライフパーク、ハナウマ湾、パイナップル畑）・サンセットクルーズ

11／20 グループ研修

11／21 現地学校訪問（訪問校八校）・ディナーパーティー

11／22～23 ホノルル—名古屋—学校

▽修学旅行 ちょっといい話

保健室への土産

A中学校のJ君は、毎日保健室に登校する。頭は茶髪で服は学らんを愛用し、黒の短靴で、悠々と始業時刻を大幅に遅れてやって来る。時にはシンナーのにおいをさせ、ふらふらしていることもある。

修学旅行の時期が近付いた。本人は行くという。J君を連れていくかどうか意見は二つに分かれた。

彼を参加させれば、他の生徒が納得しない。我が校の恥さらしだ。一方担任は、私が全責任をとるので連れていくと訴えた。結論はJ君と受持ちの意思を尊重することになった。

三日間担任はJ君と終始行動をともにして奈良・京都を巡った。彼の服装、頭髪はそのままであった。

修学旅行最後の解散集会が終わった時である。J君が養護教諭のI先生に近づいた。「おれ、土産買った」ぶっきらぼうに差し出した。常日ごろJ君唯一の居場所である保健室で優しく接してくれた人へ感謝の気持ちを表したのである。

期せずして拍手が起こった。「ばかやろう」J君は走り去った。「ばかやろう」これはきっと彼が彼自身に投げかけた本心であったかも知れない。

人の心はその人の外観だけではわからない。J君は優しい心の持ち主に違いない。

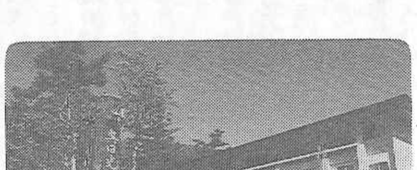
京都土産の一番人気は八ツ橋、J君は何を買った？

豊かな自然が息づく湖尻高原の中心。
箱根高原ホテルは、深い緑の中に
700名収容の大ホールや、
中小の研修室など、
数々の施設が整っています。
その他体験コースもいろいろ。
心にのこる想い出づくり
感動づくりに素晴らしい環境です。

湖尻高原の大自然に抱かれて
ハートフル・コミュニケーションをお約束します。

箱根高原ホテル
〒250-05 神奈川県足柄下郡箱根町湖尻
☎(0460)4-8595(代) FAX.(0460)4-9488

●修学旅行／林間学校／スキー体験学習
奥日光の自然と仲間たちとの語らい……



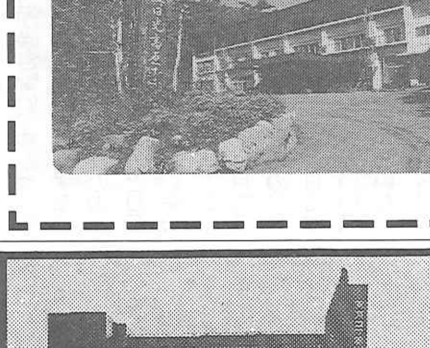
夏は林間学校、冬はスキー
自然探勝の基地として日光国立公園
内にたつ当ホテルをご利用ください
鉄筋3階建／小学生550名／中学生550名／
高校生450名収容／大浴場あり

奥日光高原ホテル
〒321-16 栃木県日光市湯元温泉
TEL. 0288(62)2121(代表)

——修学旅行の楽しいお食事——
箱根 彫刻の森美術館内
レストラン コンポート

◇500名様迄、ご利用いただけます。
◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。

〒250-04
神奈川県足柄下郡箱根町
二の平1121
☎0460(2)2221（予約センター）



東京コマ旅行会館は
第８回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、８階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木１丁目７番地
ＴＥＬ(03)3585—1046（代表）

東京 コマ旅行会館